

OTOGAWA

おとがわプロジェクトとは—— 1. 都市の持続的な経営、2. 良質な都市空間の維持・創出、
3. 民間が主導する官民連携まちづくりを目標に掲げ、岡崎市の中心部を流れる水辺空間の活用と歴史文化遺産を活かした
観光産業都市の創造とコンパクトシティの実現を目指すプロジェクトです。

 おとがわプロジェクト 

自分たちの
まちが
できるまで

GRAND DESIGN

OTOGAWA
PROJECT

『OTOGAWA GRAND DESIGN Log』

自分たちのまちができるまで』とは、

岡崎市が主導する観光産業都市の創造と

コンパクトシティの実現を目指す

官民連携プロジェクトの記録集です。

第1号となる本号では、

〈観光・文化・暮らし・商業に

焦点を定めて動き出した

『おとがわプロジェクト』の幕開けとなる

『キックオフフォーラム』、

大阪での先進的な

水辺活用事業を学ぶ『シンポジウム』、

学生らによる中央緑道・太陽の城跡地の

活用を検討した『岡崎デザインシャレット』を収録。

CONTENTS

02 KICK-OFF FORUM キックオフフォーラム

03 SYMPOSIUM シンポジウム

05 OKAZAKI DESIGN CHARETTE 岡崎デザインシャレット

12 NEXT EVENT 次なるイベント

Vol.

1

キックオフフォーラム

新しい岡崎の 風格をつくる

高齢化、中心市街地の空洞化、そして来るべき都市間競争を乗り越えるべく、東岡崎から康生に至る乙川周辺地区を対象としたまちづくり「乙川リバーフロント地区整備計画」が、これから5カ年の予定で始まります。本計画の先にある街の将来像をどのように描いていくべきでしょうか。それは誰が、どのように実現していくべきでしょうか。本フォーラムは、この街の将来像を描く最初の一歩となりました。

パネリスト

内田康宏 | Yasuhiro Uchida
岡崎市市長

清水義次 | Yoshitsugu Shimizu
建築・都市・地域再生プロデューサー/
アフタヌーン/サエティ代表

白井宏幸 | Hiroyuki Shirai
NPO法人21世紀を創る会・みかわ
岡崎活性化本部事務局長

松井洋一郎 | Yoichiro Matsui
株式会社 まちづくり岡崎 代表取締役

天野裕 | Yutaka Amano
NPO法人岡崎まち育てセンター・りた事務局長

モデレーター

藤村龍至 | Ryuji Fujimura
建築家/東洋大学専任講師

日時：2015年7月12日[日]18:30-20:30
会場：図書館交流プラザ りぶら1階ホール

官民連携の新しいスタイルとは

藤村 | 内田市市長はこの乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業(おとがわプロジェクト)のありべき姿についてどのようにお考えでしょうか。

内田 | 私が達成しようとするおとがわプロジェクトというのは、駅前の開発から河川空間の活用、市街地の再開発、さらには岡崎城を含んだ観光都市整備という岡崎が持つ財産をすべてまとめて活用していくというものです。単にハード事業を進めているだけだとご批判も多いのですが、実際は、ソフト事業に対して、民間事業者に大きく関わっていただくことによって新しいまちづくりに繋げていきたいと考えています。民間から資金を集めて行政の負担を減らしてハード事業をすすめるという従来の官民連携のスタイルを改め、これからのリバーフロント地区では、行政が所有する施設や敷地などを民間の方に最大限活用してもら

う。行政は、しっかりと収益を上げる事業を後押しし、きちんと税収が街に落ちるといった民を主体とした取り組みにシフトしていきたい。

主導する民間、 後方支援する行政へ

藤村 | 清水さん、全国で自治体の活動を支援している立場から今の市長のご意見をどのようにお聞きになったのでしょうか。

清水 | 自治財源が縮小している自治体が増加している中で、民間事業を後押しするかたちで税収を上げる行政のあり方は今の時代にまさに必要とされていることです。従来のように行政がつくり、行政が面倒を見てくれるんだと市民の方は思わないで下さい。自分たち市民がこの場所の最大の利用者ですから、民間が主体的に責任をもって活動を行う。その時にもし規制がかかるならば、行政は国と交渉して緩和していただく。これは行政でなくてはできない役割なので、是非、市長さんよろしくをお願いします。

都市経営の観点から見る まちづくりNPOの役割

藤村 | 都市経営の観点から、行政と民間の関係が変わってきているということですね。今後、民間主導のまちづくりを進めるにあたって、地元で活動される三人はどのようにお考えでしょうか。

松井 | 岡崎経済の主軸であるものづくり産業に加え、歴史的文化資産や自然環境を活用した観光産業も大切だと考えています。個店の商売繁盛へ繋ぐための自主努力を中心に、おきながら街の再生にむけた雰囲気づくり、公共、民間の空き地を活用して街の価値を向上させるような取り組みを実施できる人材を、地元の岡崎から創出できるように努めていきたいです。

白井 | モノを消費するのではなくて感動・喜び・体験の時間を消費していくことが大事だと捉えています。現在、乙川で観光船の復活に向けて取り組んでいるのですが、他にもここにいらっしゃる皆さんのやりたいと思う思いと一緒に実現していきたいです。街の人や外から来た人たちが幸せだなと感じる体験を生み出

すために。

天野 | 規制することから規制緩和へと行政の仕事が移りつつあるということは、私たちに意思決定のバトンが渡されつつあるということです。これまでは官と民の間で中立的な対応を意識していたのですが、自分も一緒にアクセルを踏んでいこうと覚悟を決めています。その時に抽象的なイメージや言葉だけで対話をするのではなく、具体的なテーマやイメージ、事業計画などを使ったコミュニケーションまで踏み込むことを意識していきたいです。

『都市の風格をつくる』対話とは

藤村 | 皆さんは対話型、あるいは公開型の官民連携についてお話されていたと思います。今後、公共空間の土地活用についての学生ワークショップ『岡崎デザインシャレット』が実施されますが、まちづくりの一環で遊休不動産の活用を実施されている清水さんから見て、どのような対話をするのが大切だとお考えでしょうか。

清水 | 時間消費の話が白井さんからありましたが、どのように歩いて楽しめる街にするのかということが多様な目線で盛り込んでいくことです。リバーフロント、橋、シンボルロード、籠田公園、康生地区、岡崎城という魅力的なスポットはありますが、面的につながっているかと言われたらそうではない。これはすごくもったいないことです。食事や宿泊も含めて、スポットをつなげてゆっくり楽しむためにはどのような場所があるといいのだろうか、ということはひとつのポイントです。

内田 | 歴代の市長や岡崎のまちづくりに取り組んできたみなさんが提案してくださったアイデアをトータルで実現するまとなない機会です。現在、国土交通省では「かわまちづくり事業」「歴史まちづくり事業」、さらに「地方創生」という国の追い風も吹き、交付金も期待できる状況のなか、このチャンスに「今やらずしていつやるのか!」と考えています。乙川リバーフロント地区のまちづくりは私の天命だと思い、取り組んで参ります。ぜひみなさんと一緒に実現していきたいと考えておりますので、よろしく願い致します。

シンポジウム

河川から考える 岡崎の将来像

乙川リバーフロント地区のまちづくり推進に向け、水辺空間に関わる都市プランナーの泉英明氏をお招きし、河川空間を活かしたまちづくりを学ぶシンポジウムが開催した。「水都大阪」に代表される水辺の公共空間を活用した事業で作り手と使い手の間をつなぐ泉氏から、実験と検証を繰り返しながら民間と行政を巻き込んでいくこと、参加の輪を広げる仕組みづくりの重要性が指摘された。

パネリスト

泉英明 | Hideaki Izumi
有限会社ハートビートプラン代表取締役/
NPO法人もうひとつの旅クラブ理事/
一般社団法人水都大阪パートナーズプロデューサー

モデレーター

藤村龍至 | Ryuji Fujimura
建築家/東洋大学専任講師
日時：2015年8月2日[日]14:00-16:00
会場：名鉄東岡崎駅岡ビル百貨店3階

河川から考える大阪

泉 | 90年代以降、大阪本社企業の東京移転が進むなど企業の本社機能の東京移転が進み、大阪の経済的な地盤沈下が顕著になっていきました。そこで、2001年から、暮らしの場で大阪のアイデンティティである水辺を活用し、「水の都」として大阪を再び盛り上げようと、大阪府と大阪市、経済界が手を組み、「水都大阪」という都市再生プロジェクトが始まりました。当初は、まちの魅力を創出する行政のハード整備を軸にしていました。並行して、私はNPOの仲間や地域の方と共に、水辺を使いこなすアイデアを考案し、合法的に実現できるか行政と協議しながら様々な社会的実験を行ってきました。たとえば、2003年には、川辺に台船を停泊しカフェにする「社会実験リバーカフェ」を実施しました。行政に対する規制緩和の働きかけなどの準備に半年を要しましたが、17日という期間で多くのお客さんが訪れ、かかった経費は回収することができました。また、京都のような川床を大阪でも実現できないかと考え、ニーズを調査したところ、川沿いのビルオーナーやテナントに希望者がいることがわ

かりました。その人たちとチームを作って試行錯誤し、期間限定で川床を設置したところ、大きな反響があり、常設化を望む声が上がりました。常設化に向けて、責任ある地元運営の仕組みを働きかけ、実現したのが「北浜テラス」です。3店舗で始まった実験は、今では常設の12店舗となり、それまで川に背を向けていたビルも川側に開かれるようになり、ガイドブックに掲載される人気エリアとなったのです。

具体的なまちづくりへ

泉 | 行政によるハード整備の進捗に伴い、継続できるコンテンツや担い手の充実を図るべく、2009年に「水都大阪2009」というイベントが開催されました。企画は市民提案を募り、多くの市民が企画・実施、イベントの運営に関わることで、大いに盛り上がりました。以後、イベントを通じて水辺を日常的に使いこなす人が生まれてきたのです。

2013年には、一般社団法人「水都大阪パートナーズ」が立ち上がり、民間事業や国内外発信を具現化していく段階へと移っていき、私はプロデューサーとして関わっています。例えば、市役所の前の中之島公園で5ヶ月実施する「中之島オープンテラス」「グリーンマーケット」では、出展企業を公募し、新たなサービスを提供し、継続への検証を行っています。かつて税関や居留地があった中之島GATEというエリアでは、アクセスが悪いというマイナス面に対し、物流コストが安い、中央卸売市場の正面で食のブランドが打ち出しやすいといったプラス面をアピールして事業者を探し、社会実験を経て、晴れて活魚市場と食堂からなる常設の「中之島漁港」がオープンしました。私たちの役割は、場所の特性を踏まえて、具体的な活用提案や規制緩和の調整から、整備事業の実現性の検証、エリアマネジメントなど都市経営を遂行できる環境を整えるまで多岐にわたります。

プレイヤー・サポーター・レポーター

藤村 | 昨今のまちづくり事業では、水都大阪の事例のように、人が集まって議論を重ね、それが具体的な事業にフィードバックされ、最終的に官民連携するプロジェクトとして始動するというプロセスが開発のひとつの定番になりつつあります。泉さんが手がけるプロジェクトには、実際、どのような方々が運営に参加されているのでしょうか。

泉 | 水都大阪では、アイデアを出して自分たち



で運営するプレイヤー、運営の手伝いを行うサポーター、運営団体をインタビューし魅力を伝えるレポーター、という区分けで募集を行いました。20代、30代の社会人はレポーター・サポーター参加が多く、サークルでこれをやりたいとプレイヤーとして参加されている50代以上の元気な方もおられます。

実験と検証を繰り返した 「水都大阪」

藤村 | おとがわプロジェクトでは、先にある程度予算化が進行しているなかで何を実行するのかを検討しているのですが、多様な参加者との提案を通して予算化と政策化が進んだ水都大阪では、プロセスを進行していく際にどのようなことを注意されていたのでしょうか。

泉 | まずは大きく4年間の工程を考え、各年毎に仮説と事業プランを考えていきます。そこでは詳細は決定せず、担い手を見つけてから事業性や採算性を詰めています。やはり民間のニーズがないところには、行政も税金は投入しませんし、プロポーザルにも及ばず次のステップに進めません。当初は予算がなかった水都大阪も公金やスポンサー企業からの協賛金を得てマネジメントする、限られた資源や期間の中でどう優先順位をつけるのが大切だと思います。

藤村 | 泉さんのお話の中で印象的だったのは、民間が主体となった仮設のイベントを実施した上で行政や企業を巻き込んで徐々に制度化され日常的なプロジェクトとなっていく段階を踏んでいるという事、また、そのイベントにただ来るだけの人がレポートする人になり、ボランティアとしてサポートする人になり、最後はそれを実際企画するプレイヤーになっていくと段階的に広がりが見えていたことだと感じました。岡崎でもこうした活動を参考にしながら展開できればと思います。

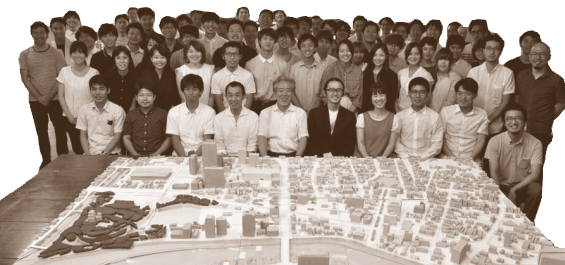


岡崎デザインシャレット 都市の再生と 活用を提案せよ

岡崎デザインシャレットとは、県内外の大学生が中心となってプロジェクトチームを組み、市民や行政、専門家(チューター、ゲストクリティック)の意見を参考にしながら、「おとがわプロジェクト」のまちづくりの提案をまとめていく、短期集中型ワークショップです。

籠田公園と乙川を結ぶ緑地化された中央分離帯のあり方を見直す中央緑道再生計画を提案するAグループと、歴史文化遺産を活かした観光振興の拠点となる太陽の城跡地活用計画を提案するBグループがそれぞれ3チームずつ分かれて課題に取り組みました。

次のページから取り組みの過程と最終成果物、そして10-11ページには岡崎デザインシャレットを通して得られた知見をコーディネーターとチューターによって中間提言としてまとめられた内容を掲載しています。



中央緑道再生計画とは

東岡崎駅前と康生地区を結ぶ新人道橋の整備を契機に、籠田公園と新人道橋を含めた「中央緑道」のあり方を見直す提案です。

平成31年度の完成を目指して整備が進められていきます。

太陽の城跡地活用計画とは

観光振興の拠点として計画されるホテルと、観光・交流の場として求められるコンベンションホールやバンケット機能、そして乙川河川敷の様々な利活用の拠点となる川の駅・リバーベースを有した、岡崎の新たな水辺空間活用の提案です。

岡崎 デザインシャレットの 取り組み

専門家からの指導

行政・市民からの声

ゲストクリティック

内藤 廣 | Hiroshi Naito
建築家/ 東京大学名誉教授

塚本由晴 | Yoshiharu Tsukamoto
建築家/ アトリエ・ワン/ 東京工業大学教授

チューター

恒川和久 | Kazuhisa Tsunekawa
名古屋大学准教授

間宮 晨一千 | Shinichi Mamiya
建築家/ 愛知淑徳大学講師

佐々木勝敏 | Katsutoshi Sasaki
建築家

岩月美穂 | Miho Iwatsuki
建築家/ studio velocity

栗原健太郎 | Kentaro Kurihara
建築家/ studio velocity

稲垣淳哉 | Junya Inagaki
建築家/ Eureka

米澤 隆 | Takashi Yonezawa
建築家

橋本健史 | Takeshi Hashimoto
建築家/ 403 architects [dajiba]

彌田 徹 | Toru Yada
建築家/ 403 architects [dajiba]

辻琢磨 | Takuma Tsuji
建築家/ 403 architects [dajiba]

浅野翔 | Kakeru Asano
デザインリサーチャー

ローカル・コーディネーター

天野 裕 | Yutaka Amano
NPO 法人 岡崎まち育てセンター・りた

山田高広 | Takahiro Yamada
NPO 法人 岡崎まち育てセンター・りた

デザイン・コーディネーター

藤村龍至 | Ryuji Fujimura
建築家/ 東洋大学専任講師

日時: 2015年8月2日[日]—8月9日[日]
会場: 名鉄東岡崎駅岡ビル百貨店3階



- パブリック・ミーティングを通じて、市民・行政の意見に耳を傾ける。専門家の意見や将来の展望を設計に反映していく。
- 内田市市長に提案を説明する藤村氏。政治的なビジョンと建築が統合され、「都市の風格」をつくりあげる。
- ショートレクチャーに加え、塚本氏・内藤氏による講評は提案の質(専門性と市民目線)を高め、まちづくりの指標になることが期待される。

TUTORIAL

チュートリアル

学生の提案に対してチューター(講師)が指導し、提案を進化させる場です。チューターは、学生にまちの課題やその解決への気づきを与え、提案の可能性を最大限引き出していきます。

SHORT LECTURE

ショートレクチャー

チューターの各専門領域に関して30分程度の講義を頂く場です。直に課題に取り組むだけでは気づけない部分を補い、より広い視野で提案するための知見を養います。

PUBLIC REVIEW

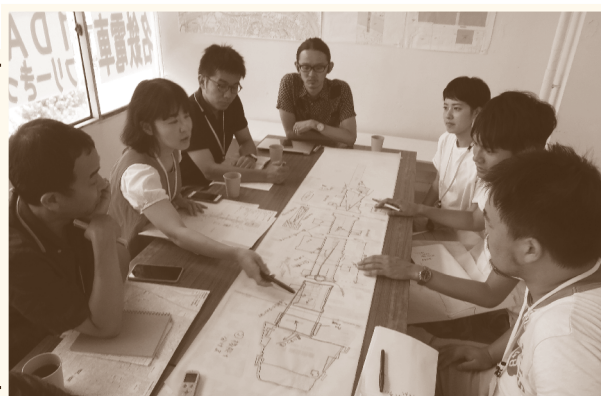
公開講評会

ゲストクリティック(講評者)の方々をお招きし、学生の提案を公開の場で講評頂く場です。また、パブリックミーティングで寄せられた市民や行政の意見とあわせて、専門的な見地を提案に反映させます。

PUBLIC MEETING

パブリックミーティング

デザインシャレット期間中に学生が市民や行政、専門家の方々に提案を発表し、意見交換や市民投票を行う場です。提案を改善するための多様な視点および要望や評価のポイントを可視化させ、提案を進化させます。



岡崎デザインシャレット 参加学生

A—中央緑道再生計画

A-1
川村 捺香 [女子美術大学]
田中匠哉 [名古屋工業大学]
中村祐太郎 [静岡文化芸術大学]
三田恭裕 [千葉大学]

A-2
木村優作 [芝浦工業大学]
小池 潤 [立命館大学]
杉浦 舞 [名古屋大学]
松本義正 [名古屋工業大学]

A-3
桂川 大 [名古屋工業大学]
田中祥子 [名古屋工業大学]
都築美波 [名古屋市立大学]
野島稔喜 [静岡文化芸術大学]
濱口結香 [名城大学]

B—太陽の城跡地活用計画

B-1
各務 希 [静岡文化芸術大学]
鈴木 哲 [豊橋技術科学大学]
錢亀夏彦 [名古屋大学]
高木里美 [椋山女学園大学]
長谷川大樹 [名古屋工業大学]

B-2
梅村樹 [豊橋技術科学大学]
川上周造 [京都大学]
柴田沙希 [名古屋工業大学]
杉浦 豪 [芝浦工業大学]
藤城太一 [名城大学]

B-3
岩田 悠 [椋山女学園大学]
櫻井貴祥 [名古屋工業大学]
鈴木港介 [名城大学]
出口隆史 [豊橋技術科学大学]
藤田恭輔 [名古屋工業大学]

運営

能登谷拓武 [豊橋技術科学大学]
磯部北斗 [名古屋学院大学]
海藤綾花 [豊橋技術科学大学]
小林洸至 [名古屋工業大学]
辻 幸人 [名古屋学院大学]
日隈壮一郎 [千葉大学]
福岡知子 [愛知淑徳大学]

TASK

タスク

中央緑道再生計画

太陽の城跡地活用計画

チューターコメント

DAY

オリエンテーション
フィールドワーク

1

DAY

チュートリアル
ショートレクチャー

2

DAY

チュートリアル
ショートレクチャー

3

DAY

パブリック・ミーティング
中間公開講評会

4

DAY

チュートリアル
ショートレクチャー

5

DAY

パブリック・ミーティング

6

DAY

チュートリアル
ショートレクチャー

7

DAY

最終公開講評会

8

A-1

A-2

A-3

B-1

B-2

B-3

岡崎のまちを読み解くために
〈集う(A-1、B-1)〉〈歩く(A-2、
B-2)〉〈眺める(A-3、B-3)〉と
いったキーワードでカメラを
片手に対象敷地周辺を探
索し、俯瞰的にまちの「魅
力」と「課題」を採集。

それぞれが見出した「課題」
と「可能性」を地図上にマッ
ピングし、チューターらを変
えて背景に潜む岡崎らしさ
を議論。〈眺める〉チームの
視点に注目が集まった。

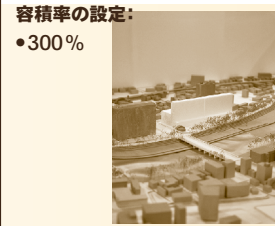
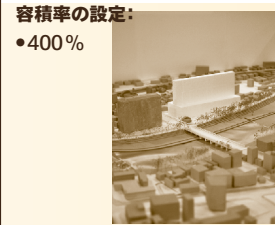
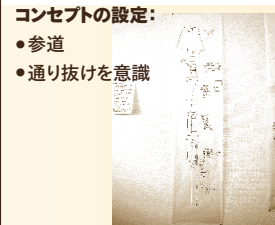
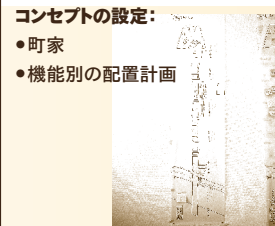
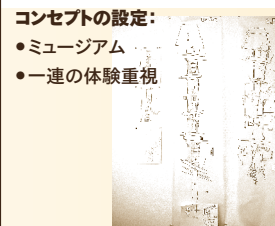
〈集う〉
●課題：
アクセスと計画のズレ
●可能性：
実際の使い方を発見し、
有効活用する

〈歩く〉
●課題：
人が行動するための
雰囲気・抛り所
●可能性：
隠れた情報と
捉え方の転換

〈眺める〉
●課題：
アクティビティを
発見する情報
●可能性：
道の表情

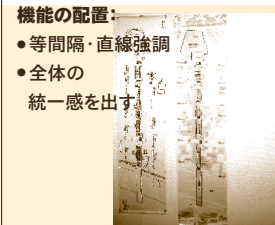
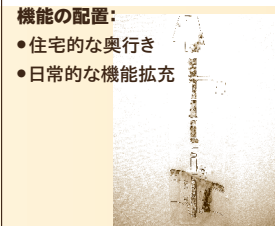
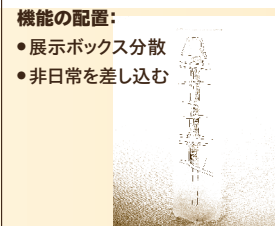
当たり前に見過ごされている行動の
背景を想像することが重要。課題の
抽出にとどまらず、可能性を支える提
案のあり方を考えて欲しい。〔浅野〕

行政、NPOや市民に加え、専門家も
多数同時に参加する機会を活かし、
成果物として提案できるよう取り組
んでもらいたい。〔橋本〕



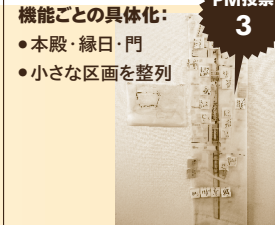
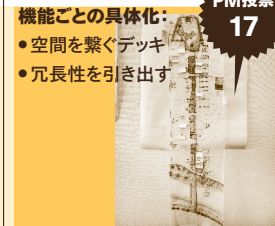
Aグループでは、敷地条件を読み解
き日常的な使われ方を想定するだ
けでなく、フェスティバルのような非
日常的な使い方も想定するように。〔岩月〕

Bグループでは、必要な機能に応じ
て床面積を配分し、基本形を更新し
ていく。その時に、どの主体が建設し、
運営していくのかを明確にして提案
に盛り込むことを意識しよう。〔恒川〕

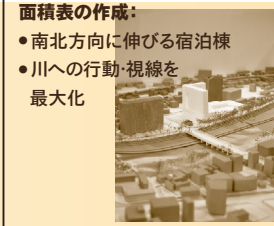
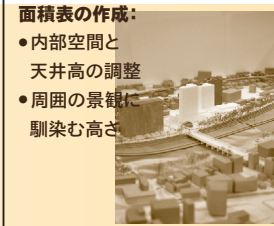
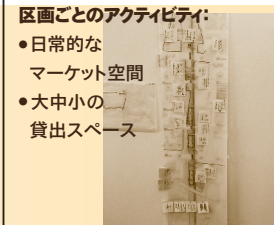
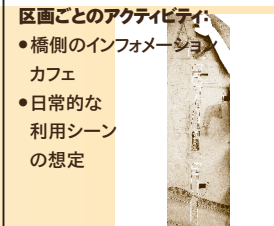
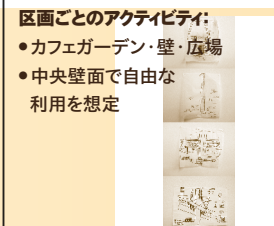


Aグループはメタファーをどう捉えた
か、空間の構成なのか、展示なの
か、何を体験させるか、現状では単
調に見える。〔米澤〕

岡崎城の軸線を意識できている。メ
インの通りから引きを作るとどうか。〔彌田・403〕
一方で、川とタワーの関係が形態に
現れるように意識してみよう。〔辻・403〕

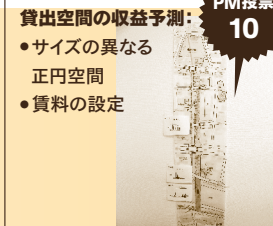


歴史のある街・岡崎で配慮すべきこ
とは一つではない。防災拠点のよう
な非日常と日常を両立させる提案
のように、複数の配慮を重ねるなか
で均衡が見えてくるまで設計するこ
と。川に対する眺めを優先すると川
に沿って長い建物が出てしまい、
川からの眺望や風の通り道がなく
なる。どちらからも水辺の風景を楽
しめる設計をしてみよう。〔塚本〕

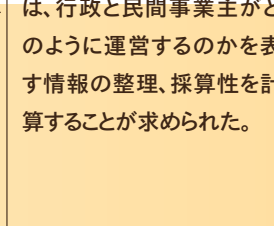
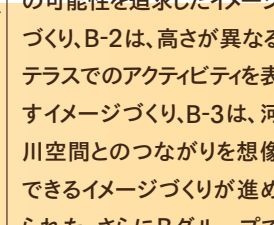
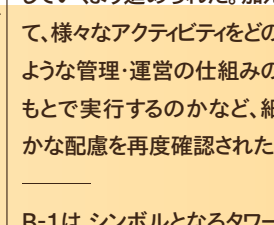
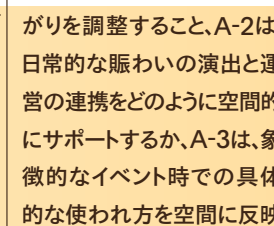
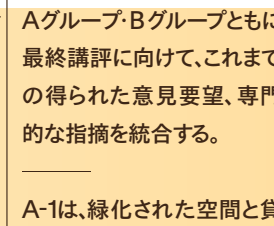


区画面積ごとに採算性を算出する
根拠を導き、筋のあるコンセプトと
す。周辺環境や利用シーンを具
体化してみよう。〔栗原〕

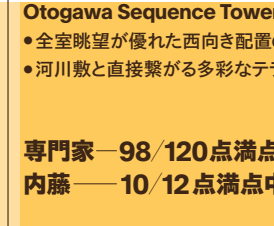
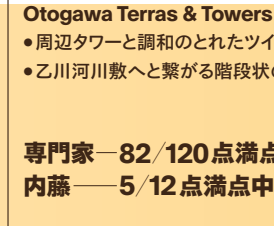
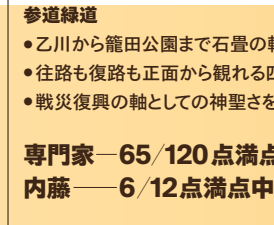
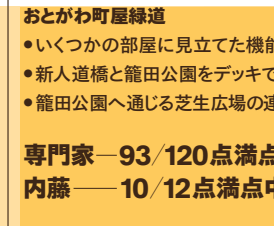
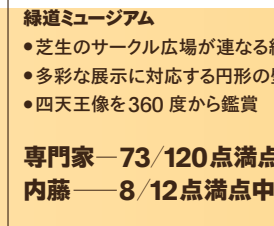
容積率ごとにスケール感や収益性
を投げかけようとしているはず。与
条件の不可避の設定の中で、こうい
うことが起こるといった想定を設計で実
践すべき。〔稲垣〕



核となる空間とアクセスを整備し、
人の流れを岡崎につくることが目的
の事業に対し、専門性のある提案で
感心致しました。市長として実現可
能性を踏まえ、一市民としては、夢が
あるものを選びたい。〔内田市長〕
開発戦略を数字と形のセットで見比
べ、経済波及効果の試算を行うこと
で異なる提案を比較できる。〔藤村〕



普段の掃除から災害時のことまで
細やかなイメージを共有し、実施で
きるようにすることが公共空間をマ
ネージメントするという。〔山田〕
公共用地でお金を稼がないと全体
を維持管理できない。だからこそ収
益をあげるためにどのような空間と
するのか、論理的に説明できる準備
をしよう。〔藤村〕



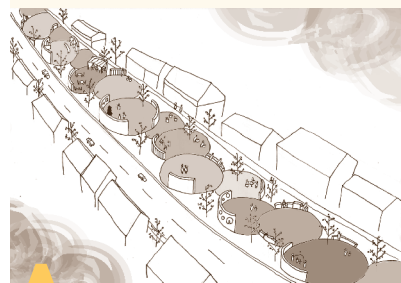
事業区分をどのように分けて、どの
事業主がどう運営するのかを建築
的に考えるのは非常に複雑です。短
い期間で市民の意見をどれほど盛
り込めたのが重要で、もう1週間
あれば発展したところもあったでし
ょう。学生の提案を行政側が受け止
め、さらに具体的に調整することが
重要です。30年後にどのように反映
されるのか、期待しています。〔内藤〕

専門家による毎日のレクチャーや意
見が少しずつ反映され、レベルの高
い提案内容を6チームともがまと
めることが出来た。〔間宮〕
市民や行政、学生、建築家がフラッ
トなテーブルの上で意見交換をする様
はまちづくりそのものだ。〔佐々木〕

同じ場所でもたくさんの
アイデアがあることに驚き！

こんな場所ができた
らにができるかワクワクする！

岡崎の魅力とどのように
連携できるかが重要そうだ。



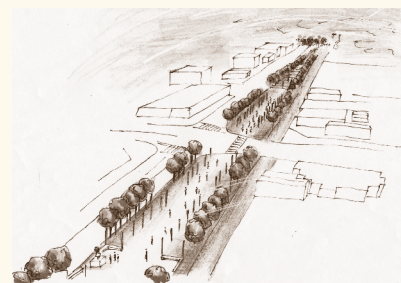
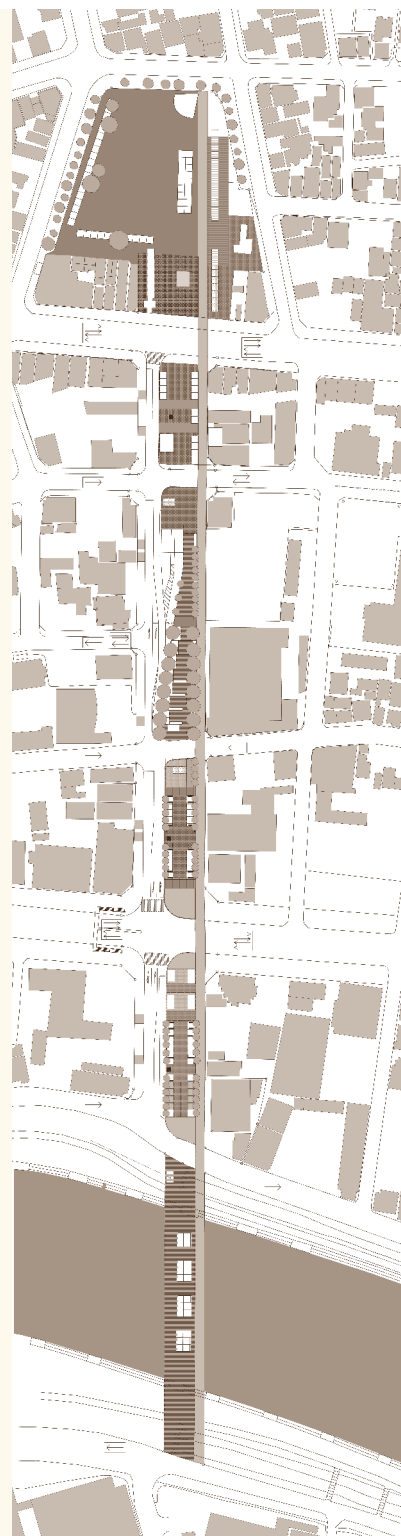
A-1 | 緑道ミュージアム

- 芝生のサークル広場が連なる緑道
- 多彩な展示に対応する円形の壁
- 四天王像を360度から鑑賞



A-2 | おとがわ町屋緑道

- いくつかの部屋に見立てた機能配置
- 新入道橋と籠田公園をデッキでつなぐ
- 籠田公園へ通じる芝生広場の連続性



A-3 | 参道緑道

- 乙川から籠田公園まで石畳の軸(参道)を通す
- 往路も復路も正面から観れる四天王像の配置
- 戦災復興の軸としての神聖さを演出



B-1 | Otogawa Trinity Towers

- 容積率400%
- 岡崎一高い120mのシンボルタワー
- 建物の中心に配置された2000人収容の大ホール



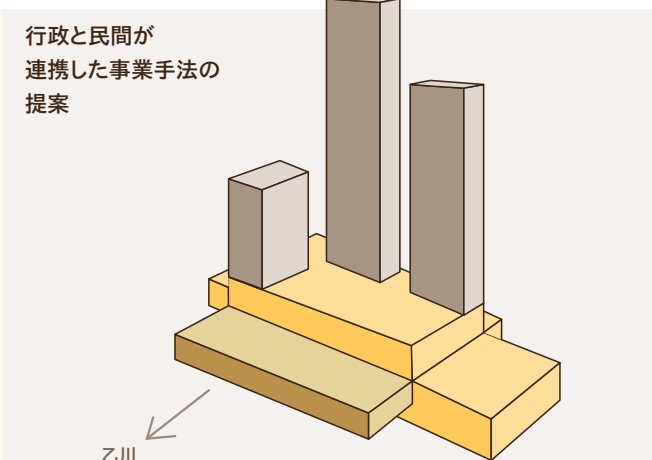
B-2 | Otogawa Terras & Towers

- 容積率300%
- 周辺タワーと調和のとれたツインタワー
- 乙川河川敷へと繋がる階段状のテラス

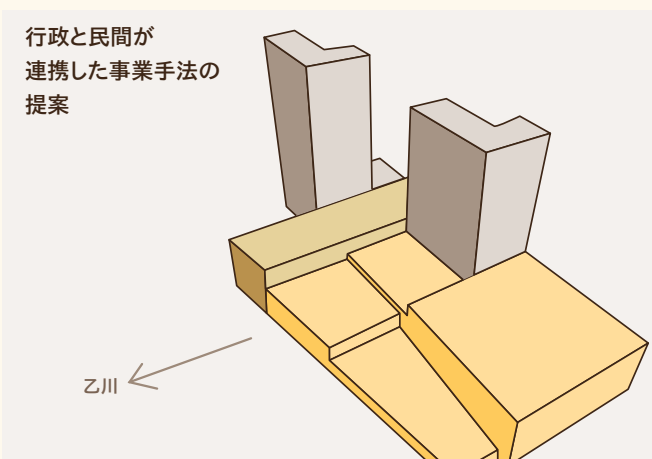


B-3 | Otogawa Sequence Towers

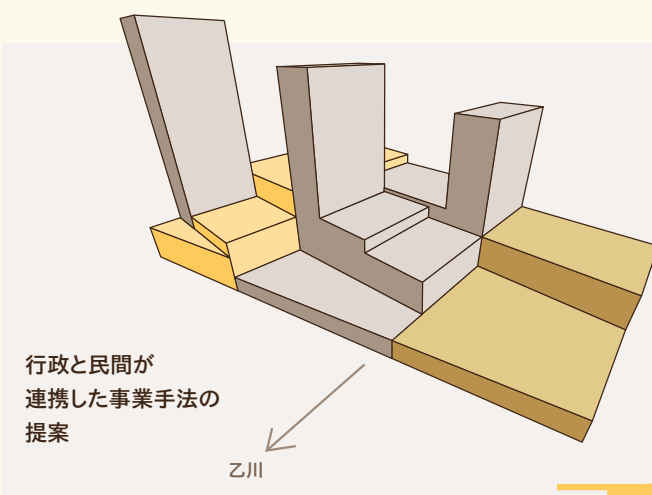
- 容積率200%
- 全室眺望が優れた西向き配置のホテルタワー
- 河川敷と直接繋がる多彩なテラス



- 民設民営: ホテル
- 公設民営: コンベンションホール・バンケット機能
- 公設公営: 川の駅・リバーベース



- 民設民営: ホテル
- 公設民営: コンベンションホール・バンケット機能
- 公設公営: 川の駅・リバーベース



- 民設民営: ホテル
- 公設民営: コンベンションホール・バンケット機能
- 公設公営: 川の駅・リバーベース

PROJECT TIMELINE

プロジェクトのタイムライン

平成 25年度

- 岡崎活性化本部による乙川リバーフロント地区基本方針策定のための提言書発表
- 岡崎市による乙川リバーフロント地区整備基本方針策定

内田市長が公約で掲げた「乙川リバーフロント構想」の具体的検討に着手「重点施策の基本方針」「エリアテーマの基本方針」「推進体制」の3つをまとめた方針。

平成 26年度

- 乙川リバーフロント地区整備基本計画策定

平成 27年度

● おとがわプロジェクト 発足

〔岡崎・乙川リバーフロントプロジェクト地区まちづくりデザイン事業〕

観光産業都市の創造やコンパクトシティの実現に向けて、新人道橋、プロムナード、ライトアップなどの「ハード整備」、かわまちづくり支援制度等を活用した「ソフト事業」を基本計画としてまとめ、国の社会資本整備総合交付金に申請、採択された。

● キックオフフォーラム開催 >>P2

分節された政策や都市空間整備の仕組みの再統合を図る先導的的事业として、民間主導の官民連携まちづくりにシフトチェンジ。

● 第1回シンポジウム開催 >>P3

● デザインシャレット実施〔パブリックミーティング2回〕 >>P4-9

● シャレット展示会開催

デザインシャレットで提案された公共空間の活用案を発表する展示会。これらの提案に対して市民の意向や評価を伺うために市民投票を随時実施した。

● おとがわキャラバン in 市役所 開催

● 第2回シンポジウム開催

● おとがわキャラバン in 籠田 開催

● 中間提言発表 >>P10-11

● まちづくりワークショップ① 開催

● おとがわキャラバン in リぶら 開催

● まちづくりワークショップ② 開催

● 専門家デザインシャレット実施

● グランドデザイン発表

● グランドデザイン展示会開催

● グランドデザインフォーラム開催

バックナンバー

『OTOGAWA GRAND DESIGN Log』は、平成 27年度に全3回の冊子発行と概要版の発行を予定しています。岡崎の将来を語る際は、ぜひお手元に。

NEXT EVENT

まちづくりワークショップ①

乙川リバーフロント地区における「かわまちづくり」「中央緑道・籠田公園活用」「歴史観光まちづくり」「まちなかにぎわい創出」の4つのテーマについて、具体的な利活用の方法について意見を交わし、事業計画を練り上げていきます。

日時：10月25日〔日〕13:30-16:30

会場：名鉄東岡崎駅岡ビル3階

定員：先着 60人（各テーマ15人程度、申込不要）

対象：活動と一緒にしていきたい方（市民、事業者）、地域住民

おとがわキャラバン in リぶら

「岡崎デザインシャレット展示会&投票会」が、岡ビル、市役所に続いてリぶら館内に開催。

日時：10月26日〔月〕-11月24日〔火〕9:00-21:00

（水曜の休館日を除く）

※ 11月14〔土〕、15〔日〕10:00-17:00は

大学生（提案者）によるプレゼンテーションあり。

会場：図書館交流プラザリぶら お堀通り

まちづくりワークショップ②

「かわまちづくり」「中央緑道・籠田公園」「歴史観光まちづくり」「にぎわい創出」の4つのテーマごとに、今後の活用提案や事業計画を発表します。当日は、意見交換の時間もあります。

日時：12月12日〔土〕10:00-12:30

会場：名鉄東岡崎駅岡ビル3階

定員：先着 100人（申込不要）

対象：活動と一緒にしていきたい方（市民、事業者）、地域住民

リノベーションまちづくりシンポジウム vol.2

パネリスト：西村浩「発明の時代へようこそ」

日時：12月8日〔火〕19:00-21:00

会場：社会福祉協議会サービスセンター

定員：先着 100名（当日受付順）

対象：遊休不動産、公共空間を活用したまちづくりに興味のある方（市民、事業者など）

イベントの詳しい情報は、

<https://www.facebook.com/renovationcityokazaki>をご確認ください。

発行元：岡崎市

発行日：2015年10月25日

監修：NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

編集：浅野翔

デザイン：刈谷悠三・角田奈央・neucitora

協力：武村彩加

問い合わせ先：

NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

tel. 0564-23-2888

mail: otogawaproject@okazaki-lita.com

Facebook:

<https://www.facebook.com/1600839740165016>